慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	大石裕教授略歴；主要業績
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	2020
Jtitle	法學研究：法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.93, No.12 (2020. 12) ,p.301- 317
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	大石裕教授退職記念号
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-20201228-0301

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

大石裕教授略歴

学歴

一九七九年　三月　慶應義塾大学法学部政治学科卒業
一九八二年　三月　慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻修士課程修了
一九八五年　三月　慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻博士課程単位取得退学

学位

一九九八年　七月　博士（法学）慶應義塾大学

職歴

一九八五年　四月―一九八九年　三月　財団法人電気通信政策総合研究所研究員
一九八九年　四月―一九九二年　三月　関西大学社会学部専任講師
一九九二年　四月―一九九五年　三月　関西大学社会学部助教授
一九九二年　四月―一九九五年　三月　東京大学社会情報研究所客員助教授
一九九五年　四月―一九九七年　三月　慶應義塾大学法学部政治学科助教授
一九九七年　四月―二〇二一年　三月　慶應義塾大学法学部政治学科教授

一九九八年　四月―二〇二一年　三月　慶應義塾大学大学院法学研究科委員（政治学専攻）
一九九八年　四月―二〇二一年　三月　慶應義塾大学大学院社会学研究科委員
二〇〇〇年　四月―二〇〇〇年　九月　Visiting Professor, Westminster University（英国）
二〇〇〇年一〇月―二〇〇二年　三月　Visiting Fellow, University of Essex（英国）
二〇〇七年一〇月―二〇一一年　九月　慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所長
二〇一一年一〇月―二〇一五年　九月　慶應義塾大学法学部長
二〇一一年一〇月―二〇一五年　九月　慶應義塾大学大学院法学研究科委員長
二〇一七年　五月―　慶應義塾常任理事

早稲田大学大学院政治学研究科、早稲田大学教育学部、日本大学大学院新聞学研究科、日本大学法学部、成蹊大学文学部、東海大学文学部、フェリス女学院大学文学部、新潟大学人文学部、静岡大学人文社会科学部、県立長崎シーボルト大学人間社会学部、常磐大学人間科学部、大阪芸術大学放送学科などで、非常勤講師を担当。

学会役職・委員

二〇〇二年　六月―二〇〇四年　五月　財団法人情報通信学会理事（「編集委員会」副委員長）
二〇〇三年　六月―二〇〇五年　五月　日本マス・コミュニケーション学会理事（「企画委員会」副委員長）
二〇〇四年　六月―二〇〇六年　五月　財団法人情報通信学会常務理事（「編集委員会」委員長）
二〇〇五年　六月―二〇〇七年　五月　日本マス・コミュニケーション学会理事（「企画委員会」委員長・副委員長）
二〇〇六年　六月―二〇〇七年　六月　財団法人情報通信学会評議員
二〇一一年　六月―二〇一三年　五月　日本マス・コミュニケーション学会理事（総務、「編集委員会」副委員長）

二〇一五年　六月―二〇一七年　五月　日本マス・コミュニケーション学会会長

社会活動

二〇〇二年一〇月―二〇一〇年　九月　日本私立大学連盟「広報委員会」委員
二〇一〇年　五月―二〇一二年　三月　朝日ニュースター「番組審議会」委員長
二〇一二年　四月―二〇一三年　三月　ＴＢＳラジオ「番組審議会」委員
二〇一二年　四月―　日本アカデメイア幹事
二〇一三年　四月―二〇二〇年三月　ＴＢＳラジオ「番組審議会」委員長
二〇一五年一二月―　ヤフー・ニュース「ニュースメディア運営に関する有識者会議」委員
二〇一六年　四月―二〇二一年三月　一般財団法人櫻田会「櫻田會賞」審査委員
二〇一六年　九月―　日本新聞協会「地域貢献大賞」審査委員
二〇二〇年　四月―　文部科学省「大学設置・学校法人審議会学校法人分科会」委員
二〇二〇年　四月―　ＢＰＯ（放送倫理番組向上機構）「放送倫理検証委員会」委員

受賞歴

一九八六年　三月　「テレコム社会科学賞奨励賞（共同受賞）」（電気通信普及財団）『世田谷ケーブル火災に関する調査研究』（電気通信総合研究所報告書）
一九九三年　三月　「テレコム社会科学賞」（電気通信普及財団）『地域情報化―理論と政策―』（世界思想社）
二〇〇〇年　三月　「櫻田会奨励賞」（一般財団法人櫻田会）『政治コミュニケーション―理論と分析―』
二〇〇六年一一月　慶應義塾賞『ジャーナリズムとメディア言説』（勁草書房）

大石裕教授主要業績

一、著　書

(1) 単　著

『地域情報化―理論と政策―』　世界思想社　一九九二年
『政治コミュニケーション―理論と分析―』　勁草書房　一九九八年
『ジャーナリズムとメディア言説』　勁草書房　二〇〇五年
『メディアの中の政治』　勁草書房　二〇一四年
『コミュニケーション研究―社会の中のメディア―（第四版）』（初版一九九八年、第二版二〇〇六年、第三版二〇一一年）　慶應義塾大学出版会　二〇一六年
『批判する／批判されるジャーナリズム』　慶應義塾大学出版会　二〇一七年
『国家・メディア・コミュニティ』　慶應義塾大学出版会　（近刊）

(2) 編　著

『ジャーナリズムと権力』　世界思想社　二〇〇六年
『戦後日本のメディアと市民意識―「大きな物語」の変容―』　ミネルヴァ書房　二〇一二年

『デジタルメディアと日本社会』　学文社　二〇一三年

(3) 共編著

田中宏・大石裕編著『政治・社会理論のフロンティア』（慶應義塾大学法学部政治学科開設百年記念論文集）　慶應義塾大学出版会　一九九八年

大石裕・根岸毅編著『変動する政治と社会―解読の手法―』（慶應義塾大学法学部政治学科開設百年記念講座）　慶應義塾大学出版会　一九九九年

大石裕・山本信人編著『メディア・ナショナリズムのゆくえ―「日中摩擦」を検証する―』　朝日新聞社（選書）　二〇〇六年

大石裕・山本信人編著『イメージの中の日本―ソフト・パワー再考―』　慶應義塾大学出版会　二〇〇八年

大石裕・山腰修三・中村美子・田中孝宜編著『メディアの公共性―転換期における公共放送―』　慶應義塾大学出版会　二〇一六年

(4) 共著書（分担執筆を含む）

"Social Impacts of the New Utopias" (with Ito Yoichi) W. Dutton et al. ed. *Wired Cities: Shaping the Future of Communications*　G.K. Hall, 1987

「地域コミュニケーションをめぐる理念と政策」竹内郁郎・田村紀雄編著『新版：地域メディア』　日本評論社　一九八九年

「社会運動と世論」社会運動論研究会編『社会運動論の統合をめざして』　成文堂　一九九〇年

「地域コミュニケーション」立川敬二監修『コミュニケーションの構造』　NTT出版　一九九三年

「社会運動とコミュニケーション―リゾート開発をめぐるメディア言説―」社会運動論研究会編

『社会運動の現代的位相』　成文堂　一九九四年
「政治コミュニケーション論の視座転換―多次元的権力観の導入―」東京大学社会情報研究所編『社会情報と情報環境』　東京大学出版会　一九九四年
「日本社会の情報化と社会変容」鶴木眞編著『はじめて学ぶ社会情報論』　三嶺書房　一九九五年
「地域情報システムの変容（三）地域住民の情報行動」東京大学社会情報研究所編『情報行動と地域情報システム』　東京大学出版会　一九九六年
「社会情報」有末賢ほか編著『社会学入門』　弘文堂　一九九六年
「情報化と地域社会」をめぐる諸概念」、「日本社会の近代化と情報化―国家・地域間関係を中心に―」『情報化と地域社会』　福村出版　一九九六年
「情報化と地方文化」間場寿一編著『地方文化の社会学』　世界思想社　一九九八年
「客観報道論再考―マス・コミュニケーション論の観点から―」鶴木眞編著『客観報道―もう一つのジャーナリズム論―』　成文堂　一九九九年
「都市と情報」藤田弘夫・吉原直樹編著『都市社会学』　有斐閣　一九九九年
「ニュースの機能と受容のメカニズム」、「印刷メディア」、「ニュースの政治学」『現代ニュース論』　有斐閣　二〇〇〇年
「マス・コミュニケーションにおける言語と認知」辻幸夫編著『ことばの認知科学事典』　大修館書店　二〇〇一年
「拡大する「政治」と社会運動論―「文化」のインパクトを中心に―」野宮大志郎編著『社会運動と文化』　ミネルヴァ書房　二〇〇二年
「マス・コミュニケーションと戦後日本の政治学」鶴木眞編『コミュニケーションの政治学』　慶應義塾大学出版会　二〇〇三年
「地域メディアと地方政治」田村紀雄編著『地域メディアを学ぶ人のために』　世界思想社　二〇〇三年

「政治環境とジャーナリズム」田村紀雄・林利隆・大井眞二編著『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』　世界思想社　二〇〇四年
「マス・コミュニケーションと近代国家」小川浩一編著『マス・コミュニケーションへの接近』　八千代出版　二〇〇四年
「チッソ安定賃金闘争」をめぐるメディア言説」小林直毅編著『「水俣」の言説と表象』　藤原書店　二〇〇七年
「沖縄地方紙と沖縄の記憶」『慶應の政治学　政治・社会』（慶應義塾創立一五〇年記念法学部論文集）　慶應義塾大学出版会　二〇〇八年
「権力とジャーナリズム」浜田純一ほか編著『新聞学（新訂）』　日本評論社　二〇〇九年
大石裕・池上彰・片山杜秀・駒村圭吾・山腰修三『ジャーナリズムは甦るか』　慶應義塾大学出版会　二〇一五年
「ニュース研究の基礎概念」、「グローバル化とニュースの国際的な流れ」山腰修三編著『入門メディア・コミュニケーション』　慶應義塾大学出版会　二〇一七年

二、学術論文

「コミュニティ権力構造論再考」　『慶應義塾大学大学院法学研究科論文集』一七号　一九八三年
「市民運動とマスコミ―南アルプス・スーパー林道建設反対運動を一事例として―」　『新聞学評論』（日本新聞学会）三三号　一九八四年
「市民運動と潜在的世論―玉川上水保存運動を一事例として―」　『慶應義塾大学新聞研究所年報』二四号　一九八五年
「電話依存型社会の陥穽」（共著：川浦康至・赤尾・晃一・古川良治）　『情報通信学会誌』三巻　一九八五年
「国際文化交流意識に見られる地域差」（共著：伊藤陽一、岩井奉信）

「地域開発とコミュニケーション政策の連関」　『慶應義塾大学新聞研究所年報』二五号　一九八六年
「日本における有線テレビ研究の現状―実証的研究を中心に―」（共著：伊藤陽一）　『情報通信学会年報』三号　一九八六年
「災害時における送り手と受け手の情報行動」（共著：古川良治）　『慶應義塾大学新聞研究所年報』二七号　一九八六年
「情報化と地域開発」　『情報通信学会誌』四巻三号　一九八六年
“The Impacts of Informationization on Regional Development”　『情報通信学会誌』五巻二号　一九八七年
“Japan's Informatinization Policy and the Urban-Rural Gap: A Critical View”　*Keio Communication Review*, No. 9　1988
「情報化政策の変遷―郵政省と通産省の競合を中心に―」　*Media Asia*, Vol. 16　1989
「マス・コミュニケーション論の変容―大衆社会論の「遺産」とパワフル・メディア論―」　『関西大学社会学部紀要』二一巻　一九九〇年
「ニューメディアの可能性と限界」　『関西大学社会学部紀要』二三巻　一九九一年
「政治コミュニケーションと文化」（共著：藤田真文）　『三色旗』一九九一年一一月号
『マス・コミュニケーション研究』（日本マス・コミュニケーション学会）四二号　一九九三年
「政治シンボルとしての地域情報化」　『放送学研究』（ＮＨＫ放送文化研究所）四四号　一九九四年
「コミュニケーションの政治学―「情報化政策」批判のための覚書―」　現代社会研究班編『現代社会の断面』関西大学経済政治研究所　一九九五年
「政治コミュニケーション論の再構成―排除モデルに関する一考察―」　『法学研究』六九巻六号　一九九六年
「政治社会学から見たモダニティ―社会運動論の展開を中心に―」　『三田社会学』三号　一九九八年
「アジェンダ（議題）設定メディアとしての新聞」　『新聞研究』（日本新聞協会）五七一号　一九九九年
「政治コミュニケーション論から見たマスメディア「組織」の現在―権力と価値の多元化―」

「メディア論の限界と政治コミュニケーション論」『NIRA政策研究』（野村総合研究所）一二巻五号　一九九九年
「地方紙のニュース制作過程―茨城新聞を事例として―」（共著：岩田温・藤田真文）『三田社会学』四号　一九九九年
「メディア・イベントとメディア言説―英国ホロコースト・メモリアル・ディを一事例として（一）―」『メディア・コミュニケーション』五〇号　二〇〇〇年
「メディア・イベントとメディア言説―英国ホロコースト・メモリアル・ディを一事例として（二）―」『法学研究』七六巻五号　二〇〇三年
「ニュース分析の視点―内容分析と言説分析―」『法学研究』七六巻六号　二〇〇三年
「「政治」の中のメディア言説―水俣病新聞報道に関する一考察―」『法学研究』七七巻一号　二〇〇四年
「世論調査と市民意識―イラク戦争と自衛隊派遣（二〇〇三～二〇〇四年）を一事例として―」『法学研究』七七巻一二号　二〇〇四年
「放送ジャーナリズムの現在」『メディア・コミュニケーション』五五号　二〇〇五年
「メディア・フレームと社会運動に関する一考察」『月刊民放』（日本民間放送連盟）三六巻五号　二〇〇六年
“A Consideration of Media-Nationalism: A Case Study of Japan after the Second World War” *Keio Communication Review*, No. 30　2008　『三田社会学』一二号　二〇〇七年
「沖縄地方紙における「記憶の網」」『法学研究』八二巻二号　二〇〇九年
「生産過程に即して考えるニュース・バリュー」『広報会議』宣伝会議　二〇一〇年
「能動的オーディエンス論の構成」『法学研究』八三巻二号　二〇一〇年
「ニュースの物語の重層性」『社会志林』（法政大学社会学部）五六巻四号　二〇一〇年
「情報社会論再考―グローバリゼーション（論）との関連を中心に―」『法学研究』八三巻一二号　二〇一〇年

「情報化の進展とコミュニティ（論）の変容―国民国家との関連から―」　『法学研究』八四巻一号　二〇一一年
「「コミュニティ」の多様化とコミュニティ・メディア」　『法学研究』八四巻二号　二〇一一年
「戦後日本の社会運動におけるチッソ労働運動の位置づけ―もう一つの「水俣」―」
『大原社会問題研究所雑誌』（法政大学出版局）六三〇号　二〇一一年
「現代日本の世論とメディア政治」　『法学研究』八四巻六号　二〇一一年
「テレビ・ジャーナリズムとテレビ政治」　『月刊民放』（日本民間放送連盟）四二巻七号　二〇一二年
「政局報道と政策報道―「三・一一震災報道」を中心に―」　『メディア・コミュニケーション』六三号　二〇一三年
「「物語」という「政治」」　『法学研究』八六巻七号　二〇一三年
「ニュースの生産過程モデル試論―「誤報」と「歴史認識」をめぐって―」
『メディア・コミュニケーション』六五号　二〇一五年
「ジャーナリズムと歴史認識」　『法学研究』八九巻二号　二〇一六年
「戦後日本の大衆社会論とマス・コミュニケーション論・再考」　『法学研究』九〇巻一号　二〇一七年
「沖縄地方紙と沖縄の「地方益」」　『法学研究』九〇巻七号　二〇一七年
「ニュースバリューとニュースの南北問題」　『三色旗』八一一号　二〇一七年
「マス・コミュニケーション論と政治意識論」　『法学研究』九一巻三号　二〇一八年
「フェイクニュースとジャーナリズム論」　『法学研究』九二巻一号　二〇一九年
「政治発展論とコミュニケーション発展モデル」　『法学研究』九二巻二号　二〇一九年
「「国家・メディア・コミュニティ」の再考察」
『ジャーナリズム&メディア』（日本大学法学部新聞学研究所）一二号　二〇一九年
「大衆の「救済」とマス・コミュニケーション」　『マス・コミュニケーション研究』九七号　二〇二〇年

三、調査研究報告書（分担執筆）

『新しいコミュニケーション理論の研究Ⅱ』（財団法人電気通信政策総合研究所報告書）　一九八五年
『世田谷ケーブル火災による電話不通に関する調査研究』（財団法人電気通信政策総合研究所報告書）　一九八五年
『諸外国の放送制度に関する調査研究』（財団法人電気通信政策総合研究所報告書）　一九八六年
『新しいコミュニケーション理論の研究Ⅲ―ニューメディアの試みから―』（財団法人電気通信政策総合研究所報告書）　一九八六年
『データ放送に関する調査研究』（財団法人電気通信政策総合研究所報告書）　一九八七年
『新しいコミュニケーション理論の研究Ⅳ―コミュニケーション研究の課題―』（財団法人電気通信政策総合研究所報告書）　一九八七年
『放送メディアの多様化と放送事業の存立の経済的基盤に関する調査研究―有料テレビ編―』（財団法人電気通信政策総合研究所報告書）　一九八八年
『海外における衛星放送計画の発展過程と将来の可能性に関する調査研究』（財団法人電気通信政策総合研究所報告書）　一九八八年
『わが国における情報政策の展開Ⅱ―新たな研究視座の構築に向けて―』（財団法人電気通信政策総合研究所報告書）　一九九二年
『情報社会におけるコミュニケーション構造の変容』（財団法人電気通信政策総合研究所報告書）　一九九三年
『水俣病事件報道のメディアテクストとディスクールにかんする研究』（文部科学省科学研究費報告書）　二〇〇六年

四、翻　訳

(1) 書　籍

H. J. ウィーアルダ編『比較政治学の新動向』（共訳：大木啓介・佐治孝夫・桐谷仁）　東信堂　一九八八年

F. J. ベリガン編『アクセス論―その歴史的発生の背景―』（鶴木眞監訳、共訳：桜内篤子・岩田温）　慶應義塾大学出版会　一九九一年

M. マコームズほか『ニュース・メディアと世論』　関西大学出版部　一九九四年

G. E. ラング・K. ラング『政治とテレビ』（共訳：荒木功・小笠原博毅・神松一三・黒田勇）　松籟社　一九九七年

『リーディングス：政治コミュニケーション』（共編訳：谷藤悦史）　一藝社　二〇〇二年

D. マクウェール『マス・コミュニケーション研究』（監訳）　慶應義塾大学出版会　二〇一〇年

(2) 論　文（抄訳含む）

「情報経済の将来」（抄訳）　『慶應義塾大学新聞研究所年報』一九号　一九八二年

「コミュニケーション政策問題理解のために」（抄訳）　『慶應義塾大学新聞研究所年報』二一号　一九八三年

「メディアの争点設定と世論」（抄訳）　『慶應義塾大学新聞研究所年報』二二号　一九八四年

「新しい電気通信サービス普及過程を分析する」（共訳）　『海外電気通信』（財団法人電気通信政策総合研究所）一九八五年一〇月号

「ビデオテックスと社会」（共訳）　『海外電気通信』（財団法人電気通信政策総合研究所）一九八六年四月号

「テレテキストの現状と将来」（共訳）　『海外電気通信』（財団法人電気通信政策総合研究所）一九八六年一〇月号

「電気通信と開発」（抄訳）　『慶應義塾大学新聞研究所年報』二六号　一九八六年

「ニューメディア時代の公共放送」　『海外電気通信』（財団法人電気通信政策総合研究所）一九八七年二月号

五、書　評（リプライ含む）

書評「岡田直之著『世論の政治社会学』」　『社会学評論』五二巻三号　二〇〇一年
書評「駒村圭吾著『ジャーナリズムの法理―表現の自由の公共的使用―』」　『法学研究』七五巻五号　二〇〇二年
ビューポイント「鶴木眞編著『コミュニケーションの政治学』」　『三田社会学』九号　二〇〇四年
書評論文リプライ「大石裕著『ジャーナリズムとメディア言説』」　『三田社会学』一一号　二〇〇六年
書評論文リプライ『大石裕・山本信人編著『メディア・ナショナリズムのゆくえ―「日中摩擦」を検証する―』」　『三田社会学』一二号　二〇〇七年
書評「遠藤薫著『間メディア社会と〈世論〉形成―TV・ネット・劇場社会―』」　『社会学評論』五九巻一号　二〇〇八年

六、評　論（Web版含む）

「情報化では東京集中を防げない」　『エコノミスト』（毎日新聞社）一一月二五日号　一九八六年
「情報開発の光と影」　『テレメディア』（テレメディア社）創刊準備号　一九八八年一一月
「今、日本のジャーナリズムを考える」　『三田評論』一〇九六号　二〇〇六年
「大学におけるNIE（教育に新聞を）」　『大学時報』（日本私立大学連盟）二〇〇七年一一月号
「「沈黙の螺旋」モデル」　『SAPIO』（小学館）二〇〇九年一二月号
「就職とジャーナリズム研究の両立をめざす慶應義塾大学「メディアコムの教育内容」」

『ジャーナリズム』（朝日新聞社ジャーナリスト学校）二四五号　二〇一〇年
「テレビに聞きたい！　行方不明の母親を捜す子供一家に密着する情緒的報道の意義とは」
『ＳＡＰＩＯ』（小学館）二〇一一年五月四日号
「学際的な理論を手がかりに「現実」に近づく」（特集：「現在」をより深く知るために「ジャーナリストが薦める一〇〇冊」）
『ジャーナリズム』（朝日新聞社ジャーナリスト学校）二七九号　二〇一三年
「慶應義塾大学メディアコミュニケーション研究所―掘り下げていく力と視点を研究を通し学び、鍛えていく―」
『ジャーナリズム』（朝日新聞社ジャーナリスト学校）二八六号　二〇一四年
「激しい誤報批判の底流にある戦後の価値観を問い直す動き」
『ジャーナリズム』（朝日新聞社ジャーナリスト学校）二九五号　二〇一四年
「産経新聞・前ソウル支局長在宅起訴を考える（Ｗｅｂ版）」（nippon com.）（二〇一四年一一月二七日）
「池上氏との対論で再認識した多様な言論があることの価値」
『ジャーナリズム』（朝日新聞社ジャーナリスト学校）二九六号　二〇一五年
「若者に魅力ある新聞ジャーナリズムへ―社会の複雑さをどう引き受けるかが課題―」
『ジャーナリズム』（朝日新聞社ジャーナリスト学校）三一〇号　二〇一五年
「時代とともに変容したメディアに今こそ必要な記録し批判する役割」
『ジャーナリズム』（朝日新聞社ジャーナリスト学校）三〇三号　二〇一六年
「古くて新しい？「脱・真実」ネット大衆社会がジャーナリズムにもたらす変化（Ｗｅｂ版）」
『The PAGE』（ヤフー・ニュース）二〇一七年二月五日
「コロナ報道の「物語」を見いだせないジャーナリズムの危機（Ｗｅｂ版）」
『ｗｅｂ論座』（朝日新聞社）二〇二〇年六月二一日

七、講演記録

「メディア・ナショナリズム―日中摩擦を事例に―」　『比較法文化』（駿河台大学比較法研究所）二〇〇七年
「ニュースと政治を見る視点」　『ニュースという「知識」』（慶應義塾創立一五〇年記念講演会）二〇〇八年
「メディアと市民意識―戦後日本社会を中心に―」　『三田評論』一一六一号　二〇一二年一一月

八、学会シンポジウム・ワークショップ記録

ワークショップ記録「地域メディアと地域マス・メディアの補完関係について―メディア環境の構造把握のための一つの視角―」　『マス・コミュニケーション研究』（日本マス・コミュニケーション学会）四三号　一九九三年
ワークショップ記録「ジャーナリズムの新しい〝文体（スタイル）〟を考える」　『マス・コミュニケーション研究』（日本マス・コミュニケーション学会）五二号　一九九八年
ワークショップ記録「客観報道の過去・現在・未来―客観報道をめぐる議論のレビューと今後の研究の展望について―」　『マス・コミュニケーション研究』（日本マス・コミュニケーション学会）五五号　一九九九年
ワークショップ記録「住民投票とローカル・ジャーナリズムの課題」　『マス・コミュニケーション研究』（日本マス・コミュニケーション学会）六二号　二〇〇三年
シンポジウム記録「ｗｅｂジャーナリズムの衝撃」　『情報通信学会誌』二四巻二号　二〇〇六年
シンポジウム記録「水俣病事件報道を検証する」　『マス・コミュニケーション研究』（日本マス・コミュニケーション学会）七一号　二〇〇七年

ワークショップ記録「ジャーナリズム研究とジャーナリスト／ジャーナリズムの間（一）―新しいジャーナリズムの構築に向けて―」
『マス・コミュニケーション研究』（日本マス・コミュニケーション学会）七七号　二〇一〇年
ワークショップ記録「メディア政治とジャーナリズム―政権交代前・後―」
『マス・コミュニケーション研究』（日本マス・コミュニケーション学会）八〇号　二〇一二年
パネル・ディスカッション記録「AI/IoT 新時代の情報通信政策の未来」
『情報通信学会誌』三六巻四号　二〇一九年
「マス・コミュニケーション研究と社会理論：討論者コメント」
『三田社会学』二五号　二〇二〇年（近刊）

九、座談会

「変動期の中のジャーナリズム」（木村太郎・鶴木眞・坂東愛彦・大石裕）
『三田評論』九八五号　一九九六年一一月
「文系大学院の行方」（冨塚嘉一・浅野考平・千葉眞・松田修一・大石裕）
『大学時報』（日本私立大学連盟）二〇〇三年九月号
「法科大学院を考える」（永田眞三郎・丸山雅夫・奥島孝康・道あゆみ・大石裕）
『大学時報』（日本私立大学連盟）二〇〇四年五月号
「これからの大学と大学生の「質」を考える」（上村祐一・飯田毅・近藤久雄・斎藤誠・大石裕）
『大学時報』（日本私立大学連盟）二〇〇八年三月号
「「学士力」と私立大学の教育力」（髙祖敏明・竹内洋・寺﨑昌男・田中愛治・大石裕）
『大学時報』（日本私立大学連盟）二〇〇八年三月号

「女子大学の力」（川合真一郎・後藤祥子・湊晶子・飯野正子・大石裕）
『大学時報』（日本私立大学連盟）二〇〇八年一一月号
「変容するメディア政治のゆくえ」（箕輪幸人・遠藤薫・矢島尚・稲井田茂・大石裕）
『三田評論』一一三二号　二〇一〇年三月
「ジャーナリズム教育の今」（野村彰男・谷藤悦史・鈴木雄雅・小俣一平・伊藤英一・大石裕）
『ジャーナリズム&メディア』（日本大学法学部新聞学研究所）第三号　二〇一〇年三月
「メディアは揺らぎ、学生は変わる。今。大学は何を教えるべきか？」（音好宏・瀬川至朗・野村彰男・大石裕）
『ジャーナリズム』（朝日新聞社ジャーナリスト学校）二四五号　二〇一〇年一〇月
「メディア政治のなかのネット選挙」（田中愛治・井原康宏・西田亮介・李洪千・大石裕）
『三田評論』一一七一号　二〇一三年一〇月
「「入試改革」のこれまでと、これから」（石原賢一・伊東辰彦・宮下明大・小林直毅・大石裕）
『大学時報』（日本私立大学連盟）二〇一六年五月号
「コロナ報道」を考える―リスク社会のメディアのあり方―」（李光鎬・烏谷昌幸・山腰修三・大石裕）
『三田評論』一二四六号　二〇二〇年七月

一〇、インタビュー

「真価を問う！　激変岐路の放送ジャーナリズム」
『放送界』二〇一五年三月三一日号
「『批判する／批判されるジャーナリズム』を書いた大石裕氏に聞く」
『週刊東洋経済』二〇一七年二月二五日号